

令和3年度

県立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要

和歌山県教育庁学校教育局県立学校教育課

一 般 選 抜

〔 国 語 〕

1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容全般にわたるように配慮した。
- (2) 大問 ㉑ では、漢字について、基本的な書く力、読む力が身についているかをみるとともに、助詞や敬語の基礎的なことながらや、場面に応じた書体の使い分けについて、正しく理解できているかをみるようにした。また、古文の基礎的・基本的なことながらについて理解できているかをみるようにした。
- (3) 大問 ㉒ では、人間社会の在り方について書かれた文章を読み、内容や筆者の考えが理解できているかをみるとともに、読み取った内容を適切に表現したり、複数の文章を関連づけて考えたりする力をみるようにした。
- (4) 大問 ㉓ では、森を歩いたときの感慨について書かれた随筆を読み、内容や表現が的確に理解できているかをみるとともに、読み取った内容を適切に表現する力をみるようにした。
- (5) 大問 ㉔ では、電車の中で席を譲れずに葛藤する小学生を描いた小説を読み、登場人物の心情を的確に読みとってまとめるとともに、自分の考えを深め、表現する力をみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、57.8点（満点100点）であった。
- (2) 大問 ㉑ では、基本的な常用漢字の読み書きは概ねできているが、文脈の中で適切な語句の使い方や、場面に応じた書体の使い分けの理解について弱さが見られた。
- (3) 大問 ㉒ では、文章の内容の基本的な読み取りは概ねできているが、抽象的な概念を表す語句の理解や、文章の構成や展開を読み取ることに弱さが見られた。
- (4) 大問 ㉓ では、文章の内容に即した語句の理解や、文章全体を通した内容の理解は概ねできているが、描写をもとに内容を理解して説明することに弱さが見られた。
- (5) 大問 ㉔ では、自分の考えを表現しようとする態度は見られたが、登場人物の心情を的確に捉え、自分の考えと関連づけてまとめる力に不十分さがみられた。
- (6) 国語科の指導にあたっては、主体的・対話的で深い学びを実現するため、多様な言語活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育み、学びに向かう力を身に付けられるような授業を構想することが求められる。

3 各問題別結果（調査人数 549人）

問 題		得点者の割合 (%)															
		15点	14点	13点	12点	11点	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
一	〔問1〕 漢字の読み書き	①													82.0		18.0
		②													92.9		7.1
		③													86.5		13.5
		④													88.2		11.8
		⑤													95.3		4.7
		⑥													86.3		13.7
		⑦													48.5		51.5
		⑧													35.2		64.8
	〔問2〕 文法・敬語	(1)													19.3		80.7
		(2)													53.6		46.4
	〔問3〕 書写														33.5		66.5
	〔問4〕 古文	(1)													80.1		19.9
		(2)													32.1		67.9
(3)														60.1		39.9	
二	〔問1〕 理解												88.9			11.1	
	〔問2〕 理解												48.6			51.4	
	〔問3〕 理解													87.2		12.8	
	〔問4〕 理解											51.2				48.8	
	〔問5〕 理解												61.0			39.0	
	〔問6〕 語彙と理解													20.2		79.8	
	〔問7〕 理解と表現								7.8	3.5	5.8	10.4	10.7	10.0	10.6	5.1	36.1
三	〔問1〕 文法													61.6		38.4	
	〔問2〕 理解													52.5		47.5	
	〔問3〕 語彙と理解													84.5		15.5	
	〔問4〕 理解											82.0				18.0	
	〔問5〕 理解と表現									1.5	1.8	7.5	7.5	14.8	6.9	4.9	55.2
	〔問6〕 理解											73.8					26.2
四	表現	10.6	11.5	10.4	7.7	6.9	7.5	4.9	2.4	3.8	4.7	2.9	3.6	3.1	1.6	0.7	17.7

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100 (%)にならない場合がある。

一 般 選 抜

〔 社 会 〕

1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている各分野全般にわたるように配慮した。
- (2) 地理的分野では、世界地理について、「和歌山県人会世界大会」を題材に、世界地図の読み取りや時差、宗教における基本的な事項を理解しているかをみるようにした。また、日本地理について、日本の第1次産業を題材に、農業や漁業についての基本的な事項を理解しているかをみるようにした。
- (3) 歴史的分野では、日本の歴史の主なできごとをまとめた略年表や幕末以降の日本と国際社会との関わりを題材に、政治や外交、経済、文化について基本的な事項を理解しているかをみるようにした。
- (4) 公民的分野では、「民主政治と政治参加」の学習のまとめや高校卒業後の進路について話し合う家族の会話を題材に、国と地方公共団体の役割や企業の仕組みについて基本的な事項を理解しているかをみるようにした。また、雇用と労働条件の課題について、社会的な見方や考え方が身につけているかをみるようにした。
- (5) 三分野とも、表や図等を題材とし、資料を読み取る力をみるようにした。また、社会的事象の意味や意義を理解し、その内容を適切に表現する力をみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、48.8点（満点100点）であり、各分野の正答率は、地理的分野60.8%、歴史的分野48.1%、公民的分野39.0%であった。
- (2) 地理的分野では、昨年と比較して全体に正答率が改善した。知識の活用を問う問題での正答率がやや低かったが、基本的な事項について正答率が改善した。
- (3) 歴史的分野では、昨年と比較して全体に正答率が改善した。しかし、記述問題や年代の並び替え問題等では正答率は低かった。
- (4) 公民的分野では、昨年と比較して全体に正答率が低下した。なかでも国会における法律の制定や改正の手続きについて問われた問題の正答率が低かった。
- (5) 社会科の指導にあたっては、社会的・歴史的事象について理解させるとともに、現代社会の課題や取組について興味・関心をもたせることや、歴史については大まかな時代の流れを理解させることが大切である。

3 各問題別結果（調査人数 549人）

問 題				得点者の割合（％）				
				4点	3点	2点	1点	0点
1	〔問1〕					89.8	0.2	10.0
	〔問2〕				71.9			28.1
	〔問3〕					73.4		26.6
	〔問4〕				48.8			51.2
	〔問5〕	(1)			56.8			43.2
		(2)			31.7	22.8	11.5	34.1
2	〔問1〕				80.3			19.7
	〔問2〕				44.6			55.4
	〔問3〕	(1)				70.5		29.5
		(2)			30.2	23.1	9.3	37.3
	〔問4〕				60.8	0.4	0.9	37.9
	〔問5〕				45.2	4.0	3.6	47.2
3	〔問1〕					47.7		52.3
	〔問2〕					78.1	0.2	21.7
	〔問3〕				37.0	9.8	6.0	47.2
	〔問4〕				49.7			50.3
	〔問5〕				10.0	6.0	0.7	83.2
	〔問6〕					51.2		48.8
	〔問7〕				25.9	0.2		74.0
	〔問8〕	(1)				57.0		43.0
		(2)				69.6		30.4
	〔問9〕				53.9			46.1
4	〔問1〕				60.1			39.9
	〔問2〕				29.7			70.3
	〔問3〕				80.1			19.9
	〔問4〕					22.0		78.0
5	〔問1〕					38.1		61.9
	〔問2〕				60.7			39.3
	〔問3〕				27.5	0.2		72.3
	〔問4〕				10.6			89.4
	〔問5〕				30.6	8.0	11.3	50.1
	〔問6〕					23.1		76.9
6	〔問1〕	(1)	A			47.7		52.3
		B			60.7		39.3	
	(2)				27.9			72.1
	〔問2〕					37.2		62.8
	〔問3〕	(1)			59.6	0.4		40.1
		(2)			29.3	10.6	6.7	53.4

(注) 得点者の割合(%)は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100(%)にならない場合がある。

一 般 選 抜

〔 数 学 〕

1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている各領域、各学年の指導内容全般にわたるように配慮した。
- (2) 「数と式」の領域では、正の数と負の数の四則計算、文字式や無理数の計算、二次方程式等についての基礎的な理解力をみるとともに、与えられた条件から連立方程式を立式し、題意に即して正しく処理する能力をみるようにした。
- (3) 「図形」の領域では、立方体の空間図形を考察し、辺と面、辺と辺の位置関係などの基礎的な理解力をみるとともに、錯角、円周角の定理を用いた合同の証明等、思考や推論の過程を論理的に表現する力をみるようにした。また、三平方の定理、相似な図形の性質、相似な図形の面積比についての学習内容を活用する力をみるようにした。
- (4) 「関数」の領域では、一次関数や二次関数等についての基礎的な理解力をみるとともに、関数と図形との関係を総合的にとらえ、正しく処理する能力をみるようにした。
- (5) 「資料の活用」の領域では、近似値、中央値と最頻値、確率の基礎的な理解力をみるとともに、与えられた規則に従って、起こり得る場合を整理し、正しく処理する能力をみるようにした。
- (6) 各領域とも基礎的・基本的な内容の習得ができてきているかについてみるとともに、問題解決への関心・意欲、数学的な見方や考え方や事象を数理的に考察する力をみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、42.7点（満点100点）であった。
- (2) 「数と式」の領域では、基本的な計算は概ねできているが、方程式の立式を問う問題の正答率が低かった。
- (3) 「図形」の領域では、特に円の性質を活用する問題の正答率が低かった。
- (4) 「関数」の領域では、動的な対象を考察する力が弱く、関数の特徴を理解する問題の正答率が低かった。
- (5) 「資料の活用」の領域では、基礎的な理解力はあるが、起こり得る場合を順序よく整理し、確率を求める問題の正答率が低かった。
- (6) 数学における指導にあたって、基礎・基本の知識・技能を習得させるとともに、数学的な見方や考え方を働かせた学習活動を通して、種々の事象を、数量や図形との関係に着目してとらえ、論理的、統合的に考えさせる工夫が求められる。

3 各問題別結果（調査人数 549人）

問 題				得点者の割合（％）							
				6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点	
1	〔問1〕	(1)	正の数・負の数				98.7			1.3	
		(2)	正の数・負の数				92.0			8.0	
		(3)	文字の式				87.1			12.9	
		(4)	平方根				86.0			14.0	
		(5)	式の展開				74.5			25.5	
	〔問2〕	二次方程式					72.5			27.5	
	〔問3〕	文字の式					59.4			40.6	
	〔問4〕	資料の活用				22.6				77.4	
	〔問5〕	中央値	資料の活用					64.5		35.5	
最頻値		資料の活用					74.7		25.3		
2	〔問1〕	(1)	空間図形				27.5			72.5	
		(2)	空間図形				67.0			33.0	
		(3)	空間図形				36.8			63.2	
	〔問2〕	関数					38.6	12.0	23.3	26.0	
	〔問3〕	(1)	確率					55.7			44.3
		(2)	確率				19.7				80.3
	〔問4〕	連立方程式		20.6	6.9	4.7	4.4	8.9	8.4	46.1	
3	〔問1〕	(1)	ア	規則性				94.2		5.8	
			イ	規則性				90.9		9.1	
	(2)	規則性・文字の式				8.7	3.3	14.0	22.4	51.5	
	〔問2〕	(1)	規則性・文字の式					52.6			47.4
		(2)	規則性			31.1					68.9
4	〔問1〕	関数					65.4			34.6	
	〔問2〕	関数					35.0			65.0	
	〔問3〕	関数・平面図形			2.2					97.8	
	〔問4〕	関数・平面図形		24.2						75.8	
5	〔問1〕	平面図形					40.8			59.2	
	〔問2〕	平面図形				11.8				88.2	
	〔問3〕	図形の合同		6.6	0.7	2.4	4.7	11.3	17.1	57.2	
	〔問4〕	図形の相似				1.6	0.2			98.2	

(注) 得点者の割合(%)は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100(%)にならない場合がある。

一 般 選 抜

〔 理 科 〕

1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている各分野全般にわたるように配慮した。
- (2) 自然の事物・現象を探究するために必要とされる基礎的・基本的事項についての知識・理解及び科学的な思考力、問題解決能力が身につけているかをみるようにした。
- (3) 観察・実験を重視し、結果を分析する能力、判断力及び表現力をみるようにした。
- (4) 第1分野では、中和反応、音の性質について、基本的事項が理解できているかをみるようにした。また、化学変化、質量変化の規則性及び電流がつくる磁界について、科学的な思考力、表現力をみるようにした。
- (5) 第2分野では、大地の成り立ちと変化、感覚器官、刺激と反応について、基本的事項が理解できているかをみるようにした。また、植物の体のつくりと働き及び日周運動と自転について、科学的な見方や考え方が身につけているかをみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、50.8点（満点100点）であった。
- (2) 全般的には、日常で経験する現象についての基礎的・基本的な内容を問う問題の正答率は高かったが、短文で説明する問題や文中で適切な語句をすべて答える問題の正答率がやや低かった。
- (3) 第1分野では、中和反応のイオン式や、コイルと磁石による電流の発生について調べる実験に関する記述問題の正答率がやや低かった。第2分野では、感覚器官、植物の体のつくりと働きについて基礎的・基本的な用語に係る問題の正答率が高かったが、方角による星の動きの違いなど思考力を問う問題の正答率は低くなった。
- (4) 理科の指導にあたっては、基本的な内容の理解を一層深めるとともに、科学的な視点で自然現象をとらえ、対話的に思考を深めていくような指導が望まれる。
観察・実験については、結果を分析し、その結果から何がわかるか正しく判断し、自らの考えを表現する力を育成することが大切である。また物理量の計算については、その物理量の意味をきちんと理解した上で計算式を組み立てる感覚を養うことが求められる。

3 各問題別結果（調査人数 549人）

問 題			得点者の割合 (%)					
			5点	4点	3点	2点	1点	0点
1	〔問1〕	(1)				90.7		9.3
		(2)				88.2		11.8
		(3)			33.0			67.0
		(4)				69.8		30.2
	〔問2〕	(1)				3.1		96.9
		(2)			34.4			65.6
		(3)				64.8		35.2
		(4)		29.1		0.9	0.2	69.8
2	〔問1〕			80.7			19.3	
	〔問2〕			70.1			29.9	
	〔問3〕			82.9			17.1	
	〔問4〕			88.0			12.0	
	〔問5〕		69.4	0.2	0.9		29.5	
	〔問6〕		44.3				55.7	
3	〔問1〕				78.5		21.5	
	〔問2〕				54.3		45.7	
	〔問3〕				41.0		59.0	
	〔問4〕			54.1			45.9	
	〔問5〕		55.9		0.2		43.9	
	〔問6〕		41.2		1.3		57.6	
	〔問7〕			28.1			71.9	
4	〔問1〕				58.7		41.3	
	〔問2〕			33.0		0.9	66.1	
	〔問3〕	(1)			36.1			63.9
		(2)				69.6		30.4
	〔問4〕				43.4		56.6	
	〔問5〕		47.2		0.2		52.6	
	〔問6〕		44.8				55.2	
5	〔問1〕				84.7		15.3	
	〔問2〕				44.1		55.9	
	〔問3〕			37.3	0.2	0.2	62.3	
	〔問4〕				66.1		33.9	
	〔問5〕			45.2			54.8	
	〔問6〕				58.8		41.2	
	〔問7〕			39.0	0.2		60.8	
	〔問8〕			22.8			77.2	

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100 (%) にならない場合がある。

一 般 選 抜

〔 英 語 〕

1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容全般にわたるように配慮した。
- (2) 英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度が身についているかをみるようにした。
- (3) 題材については、生徒にとって身近なものを使用し、取り組みやすい内容とした。和歌山から海外に渡った日本人移民について調べたこと、英語による観光ガイドの経験を通じて相手と良好な関係を築くことの大切さを知ったこと、地球温暖化対策としてできることが身近にあると学んだこと等の内容を取り上げた。
- (4) 「音声」の領域では、身近な場面についての基礎的な対話文を聞いて理解する力をみるとともに、まとまりのある文章を聞いて、その要点を聞きとる力をみるようにした。
- (5) 「理解」の領域では、英文の内容について、その概要や要点を読み取る力、話の流れを筋道立てて理解していく力が身についているかをみるようにした。
- (6) 「表現」の領域では、与えられた身近なテーマについて、自分の考えを30語以上の英語で自由に表現させることにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や自己表現力が身についているかをみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、52.1点（満点100点）であった。
- (2) 「音声」の領域では、7割以上の正答率が得られた問題が多く概ね良好であった。場面を適切にとらえる必要がある問題では、正答率がやや低く、課題が残った。
- (3) 「理解」の領域では、英文の概要や要点を読み取る力は概ね良好であるが、適切に文脈を読み取ったうえで、短い英文で表現する力や、指示語が指す内容を正しく把握する力にやや課題がみられた。また、語句を正しい語順に並べ替える「語整序」は正答率が低く、課題が残った。
- (4) 「表現」の領域では、英語で積極的にコミュニケーションを図り、自分の考えを自由に表現しようとする態度はみられたが、指定された条件に従い、与えられたテーマについての的確に表現する力・正しく英文を構成する力は、受検者の間に大きな差がみられた。
- (5) 英語の指導においては、言語や文化に対する理解を深めるとともに、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけることが求められ、日常の授業においても4技能をバランスよく育成する必要がある。

3 各問題別結果（調査人数 549人）

問 題				得点者の割合（％）											
				10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点	
1	〔問1〕	No. 1	リスニング									81.4		18.6	
		No. 2										88.7		11.3	
	〔問2〕	No. 1	リスニング									68.5		31.5	
		No. 2										77.2		22.8	
		No. 3										57.6		42.4	
	〔問3〕	No. 1	リスニング									84.7		15.3	
		No. 2										80.5		19.5	
		No. 3										67.9		32.1	
		No. 4										80.1		19.9	
		No. 5										82.1		17.9	
2	〔問1〕	(1)	内容理解									78.7		21.3	
		(2)	内容理解									69.9		30.1	
	〔問2〕	内容理解								54.6	0.7	19.5	17.1	8.0	
	〔問3〕	(1)	条件作文								21.1	8.4	4.7	1.5	64.3
		(2)	内容理解									60.3			39.7
3	〔問1〕	条件作文								27.1	13.7	7.5	2.2	49.5	
	〔問2〕	内容理解									49.7			50.3	
	〔問3〕	A	対話文完成									49.7			50.3
		B	対話文完成									65.4			34.6
	〔問4〕	内容理解								7.7	13.7	21.5	10.4	46.8	
4	自由作文			4.0	6.0	7.3	6.6	8.2	7.5	7.3	6.9	5.3	4.4	36.6	
5	〔問1〕	㉠	内容理解									62.1		37.9	
		㉡	内容理解									46.3		53.7	
	〔問2〕	a	語整序									29.5		70.5	
		b									29.9		70.1		
	〔問3〕	内容理解								11.3	21.1	13.5	10.4	43.7	
	〔問4〕	(1)	英問英答									28.4	21.7	10.6	39.3
		(2)									31.1	8.0	6.6	54.3	
	〔問5〕	内容理解									43.9			56.1	
	〔問6〕	内容理解						14.6	12.8	6.6	7.7	4.7	2.4	51.4	

（注） 得点者の割合（％）は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100（％）にならない場合がある。